

# 陽水(ようすい)

登録番号: 第8739号

登録年月日: 平成13年3月13日

登録者: 愛知県(愛知県名古屋市中区三  
の丸3-1-2)

育成者: 榊原正義 真子伸生 岡田詔男

本美善夫 吉田安伸 木村伸

人 今川博之 坂野 満

来歴: 「新高」と「幸水」の交雑実生

育成地: 愛知県愛知郡長久手町(愛知  
県農業総合試験場園芸研究所)

## 特性

### ■栽培特性

樹勢は「新高」並みに強く、枝は太く、長く、発生数は比較的多い。樹姿は「新高」に似ている。えき花芽の着生は「幸水」並みに少ないが、短果枝の維持が容易であるため、花芽が確保できれば収量性は「新高」と同程度と予想される。育成地における開花は4月上旬で、「豊水」と同時期、「新高」より3~4日遅く「幸水」より2日早い。自家結実性はなく、「幸水」、「豊水」、「新高」とは交配親和性であることを確認しているが、「幸水」を花粉親にした場合は結実率がやや低い。1花叢の花数、雄ずいの数が多く、花粉の量は多い。

### ■果実特性

育成地における収穫期は9月中・下旬から10月上旬の間である。「豊水」と「新高」の間にあたるが、一部が両品種と重なる。年次によっては収穫時期が多少早まる場合がある。果形は扁円形で、成熟期の果皮の色は黄褐色で、大きな果点が多く分布する。果実は「新高」並みに極めて大きく、平均が800~900gに達し、1kgを超える果実も見られる。果肉は白色で多汁、肉質は「新高」と同等ないしやや柔らかい。糖度は「新高」と同等ないしやや高く、平年で14~15%、酸味は少なく、pHは5.2~5.3である。日持ち性は「新高」、「愛宕」より劣り、室温(約15℃)で15日程度である。冷蔵による貯蔵性も「新高」より劣る。「新高」に見られるていあ部周辺の裂果、蜜入り、「愛宕」に見られる芯腐れなどの生理障害は見られない。成熟期に乾燥すると、軽いユズ肌を呈する場合がある。後期落果はない。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒斑病には抵抗性を示し、えそ斑点病は非発現性である。慣行の防除体系で試作した限り、特に問題となる病虫害の発生は認められない。「豊水」、「新高」と同様の防除体系で実用上問題ないと思われる。

交配親和性が高く、開花期が同時である「豊水」とは相互に受粉樹として適する。えき花芽の着生が少ないため、7月に新梢の誘引を行い花芽確保に努める必要がある。短果枝の維持は容易で、果形の揃いが優れる傾向があることから、短果枝主体の着果が望ましい。8月下旬以降成熟期までの天候が品質に与える影響が大きい。この時期のかん水は重要であり、乾燥するとユズ肌肌肉の発生や果皮の着色より果肉の成熟が先行する場合がある。8月下旬から9月中旬に高温・乾燥が続く年には収穫時期に注意し、収穫が遅れないように注意する必要がある。

800~900gの果実を目標とする場合の着果量は、10a当たり6,000~7,000個程度と見込んでいる。無袋でも栽培可能であるが、虫害、鳥害、傷果の発生には注意を要する。

### ■地域適応性

愛知県内での栽培事例しかないが、全国の主要な日本ナシの栽培地域であれば、問題なく栽培可能と思われる。開花期の晩霜害については「新高」ほど心配はなく、開花期が同じ「豊水」の栽培に支障なければ問題ない。8月以降の乾燥は成熟に影響すると思われるため、この時期乾燥する地域ではかん水設備は不可欠である。

(上林義幸)